

7 愛防第 21 号
令和 7 年 12 月 26 日

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 7 号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、御参考の上、防除指導方よろしく
お願いします。

記

1 情報の内容

ハダニ類による冬春いちごに対する加害の注意について

2 対象害虫 ハダニ類

3 対象作物 冬春いちご

4 発生状況

- 1) 発生主体はナミハダニで、12 月中下旬の巡回調査では、寄生株率 15.1% と平年 (11.3%) と比べ高くなっている（図 1）。
- 2) 1 か月予報（12 月 18 日、高松地方気象台発表）では、気温は高い見込みとされており、発生に助長的である。

4 防除上の注意

- (1) ハダニ類は葉裏等の薬液のかかりにくい場所に寄生することが多いため、散布ムラに注意し丁寧に散布する。
- (2) ナミハダニに対しては、圃場や薬剤の使用歴によって感受性が異なるなど、有効薬剤が限定されているので、薬剤の選択に注意する。
- (3) 低密度時の防除が重要となるため、圃場観察により早期発見、早期防除に努める。
- (4) 薬剤の選択に当たっては、ミツバチや天敵となるカブリダニ類等への影響を考慮する（表 1、2）。
- (5) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、気門封鎖剤（表 2）を含め、系統の異なる薬剤によるローテーション使用に努め、薬剤散布後は防除効果の確認を行う。



写真 1 ナミハダニの形態(成虫と卵)



写真 2 ナミハダニの多発状況

(多寄生すると葉全体が生気を失うとともに、ハダニ類の吐糞によりクモの巣で覆われたようになって萎縮する（最終的には枯死）)



図1 巡回調査(12月)におけるハダニ類の年次別推移

表1 イチゴのハダニ類に対する防除薬剤

| 薬剤名 | 農薬分類 (IRAC) | 希釈倍率 | 収穫前日数 /使用回数 | ミツバチ への影響 | 天敵に対する影響 | |
|--------------|----------------|--------|----------------|--------------|----------|---------|
| | | | | | ミヤコカブリダニ | チリカブリダニ |
| マイトコーネフロアブル | 20D | 1,000倍 | 前日/2回 | 1日 | 0日 | 0日 |
| コロマイト水和剤 | 6 | 2,000倍 | 前日/2回 | 1日 | 7日 | 7日 |
| アファーム乳剤 | 6 | 2,000倍 | 前日/2回 | 2日 | 7日 | 7日 |
| ダブルフェースフロアブル | 25B+21A | 2,000倍 | 前日/1回 | 1日 | 14日 | 14日以上 |
| ダニコングフロアブル | 25B | 3,000倍 | | 1日 | 0日 | 0日 |
| ダニオーテフロアブル | 33 | 2,000倍 | 前日/2回 | 影響なし | 0日 | 0日 |
| グレーシア乳剤 | 30 | 2,000倍 | 前日/2回 | 1日 | 100日以上 | 強い影響 |

1)天敵に対する影響は、農薬メーカー技術資料等から引用。

2)表中の影響の程度及び期間は目安であり、散布時の気象条件(温度、降雨、紫外線の程度及び換気条件等)により変化するので注意する。

3)ダニオーテフロアブルは銅剤との混用を避ける。本剤散布後に銅剤を使用する場合は10日以上間隔を空ける。

表2 気門封鎖型農薬の使用方法

| 薬剤名 | 対象病害虫 | 希釈倍率 | 使用時期 | 使用回数 | 天敵類への影響 |
|-----------|--------------------------|--------------|--------|------|--|
| アカリタッチ乳剤 | ハダニ類 | 1,000~3,000倍 | 収穫前日まで | - | ・虫体に散布液が接触すると死亡率は高まる。 ・ミヤコカブリダニよりもチリカブリダニの影響が大きい。 |
| エコピタ液剤 | ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類、うどんこ病 | 100倍 | 収穫前日まで | - | ・散布液の乾燥後(天敵放飼前の使用)では影響がほとんどない。 |
| 粘着くん液剤 | ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類、うどんこ病 | 100倍 | 収穫前日まで | - | |
| ムシラップ | ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類、うどんこ病 | 500倍 | 収穫前日まで | - | |
| サファオイル乳剤 | ハダニ類 | 300~500倍 | 収穫前日まで | - | |
| フーモン | ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類、うどんこ病 | 1,000倍 | 収穫前日まで | - | |
| サンクリスタル乳剤 | ハダニ類、うどんこ病 | 300~600倍 | 収穫前日まで | - | |

1)散布液がハダニ類に直接かからないと効果がないため、ムラなく散布液が掛かるよう葉の表裏に丁寧に散布する。

2)殺卵効果がなく(サファオイル乳剤を除く)、残効性がないため、高温時など増殖が旺盛な時期には、5~7日程度の間隔での連続2回散布や他剤とのローテーション散布を行う。

3)夏期高温時など薬害が生じやすい条件では使用を避ける。

4)薬害が発生する恐れがあるため、初めて使用する品種では試しがけを行う。

5)展着剤の加用は必要ない。

6)アカリタッチ乳剤は果実への薬害軽減のため使用倍数は2,000~3,000倍とする。なお、「あまおとめ」には使用しない(薬害)。

7)サンクリスタル乳剤の完熟状態での使用は品種により黒ずむ場合があるので完熟となる前までに散布する。